

```

% ファイル名 : structure.tex

\documentclass{jsarticle}
\begin{document}

\title{理科系の作文技術}
\author{東京女子大学なんとか学科 \ \ 学生番号 氏名}
\date{\today} % これで、タイプセットした日付が自動的に入る
%\date{} % 引数を空にしてdateコマンドを使うと、日付が出ない。
\maketitle

\begin{abstract}
\LaTeXe の原稿の、全体の構成を示します。
\end{abstract}

\tableofcontents % 目次の自動生成
% (このコマンドを書いたとき、2回タイプセットする必要がある :
% 1回目で目次のデータができ、2回目にそれが読み込まれる)

\section{序章}
\subsection{チャーチルのメモ}
1940年、壊滅の危機に瀕した英国の宰相の座についてウィンストン・チャーチルは、政府各機関の長に次のようなメモを送った。

\begin{quotation} % quotation環境 (引用) の始まり
われわれの職務を遂行するには大量の書類を読まねばならぬ。
その書類のほとんどすべてが長すぎる。時間が無駄だし、
要点をみつけるのに手間がかかる。

同僚諸兄とその部下の方々に、報告書をもっと短くするように
ご配慮願いたい。
\end{quotation} % quotation環境の終わり

\section{第二節}
\subsection{2の1です}
なんとら\footnote{脚注です。} % 脚注には、footnoteというコマンドを使います

\subsection{2の2です}
かんたら

\subsection{2の3だよ}
あーたら

\subsection{これは2の4だよね}
こーたら

\end{document}

```